

君達、文津社より打切りの。

一同 八時

近藤氏

場長は會社で金がかつるか、此所では金見出米ないかせうか。

竹内氏

其事が其れは初達之人(竹内、西取、山崎)の意思であつて、場長はどうか知れない

或は此所でも金見出米かも知れない。

一同

それではなうだけ誠意を以て御伺ひ致しますから何卒宜しく頼みます。

會社側

よろしい。

第二 工場休業と休業中の経過

五月十五日電氣工果給問題提出より漸く不穩の氣工場内は溢れ三日頃に至りては急業罷業相半ばし二十一日に至りては殆んど四罷業状態となり續いて二十二日に至り益々甚だしく彼等代表者の報告の便宜を討代表者と協議の上午後一時より臨時休業(当日限り)の揭示をふしたるも不拘入場職工全部は工場事務所在りし大屋造船部長以下に押寄

せ押問答をな續いて表門事務所へ押寄せ来りて毫も退場するの氣色なく益々喧騒を極め止まらなく階上より当日の日給金額を支給する旨を竹内主事より申渡し午後三時三十分に至りて全部退場するに至り。

退場後彼等は善行寺大會を開き

一 吾々の目的を貫徹する爲飽く迄闘ふ事。

二 争議團を各所に設置する事。

三 明日午後一時より會社糾弾演説會を開催する事。

等と決議し更に反省の意思なく然れ共工場には十二隻の修繕船と六月初旬に引渡すべき船進丸等ありて船主に対しては申訳なく延滞は因島の盛衰とも関し國家重大の時なるを考を思し隠忍自重以て工場の威信を失墜して迄は數日米の彼等の行動は堪へず三其反省を促したるも更らば反省の色なく益々結束を堅くして會社に對抗するに至り。

事茲に至りては到底業を續くる事を得ず、止むなく断然たる所置を採りて國家産業の爲め、彼等の覺醒を促すべく二十三日より当分の内工場休業を断行するに至り。